



「ヘルスケアの未来に、サイエンスから導く個別化栄養」

第8回「栄養とエイジング」国際会議プログラム

～“平均寿命と健康寿命が一致する社会の実現”～

2019年10月1日(火)～2日(水)

東京大学 弥生講堂 または 東京 青山 国連大学ウタント国際会議場

(※ 場所・演題名・演者は変更になる場合がございます。ご了承ください。)

10月1日(火)

9:00-9:10 **開会の挨拶** 宮澤 陽夫 (ILSI Japan 会長)

セッション1: オーバービュー

◆座長: 岩元 睦夫

9:10-9:50 【長寿社会の課題と可能性】 秋山 弘子 (東京大学 高齢社会総合研究機構 特任教授)
長年続いた人生50年時代から100年時代への急速な移行。長寿社会の新たな生き方と社会のあり方が問われている。
課題と可能性が山積するイノベーションの宝庫。テクノロジーと社会の仕組みのイノベーションが求められている。

9:50-10:30 【日本の栄養政策の歴史】 正林 督章 (元厚生省健康課長 現がんセンター理事長特任補佐)
第二次世界大戦直後、貧困、食料不足が深刻となり、結核をはじめとした感染症が猛威を振るう中、GHQ占領下で日本の栄養政策を含む
保健医療政策は戦後大きく変わり、平均寿命も劇的に改善された。こうした日本の栄養政策の歴史を振り返り、現代の課題を提示する。

10:30-10:40 休憩

◆座長: 辻村 英雄

10:40-11:20 【健康日本21(第2次)の現状と課題】 辻 一郎 (東北大学大学院医学系研究科 公衆衛生学専攻 教授)
健康日本21(第二次)は、2018年に中間報告が終わり、後半5年の途上にある。健康寿命の動向と栄養・食生活に
関する項目を中心に、中間報告の結果を概括したうえで、今後の課題と健康づくりのあり方を展望したい。

11:20-12:00 【International Research Developments Focus on Human Variation in Response to Food and
Nutrients】 Dr. Richard Head (南オーストラリア大学 がん研究センター名誉教授
オーストラリア)
There is a convergence of a number of key aspects of Nutrition and Aging research. There is the ongoing
research interest in healthy aging and in nutrition for older adults. Concurrently there is a growing research
focus on human variation in response to food and nutrients. Aspects of this convergence will be explored.

12:00-12:40 総合討論

セッション1 講演者全員 及び モデレーター: 辻 一郎 (東北大学大学院医学系研究科 教授)

12:40-13:40 昼食

セッション2: ILSI JAPANの取り組み

◆座長: 中村 丁次

13:40-13:50 【健康な食事研究会】 安川 拓次 (ILSI Japan 理事長)
13:50-14:10 【健康な食事研究会(健康な食事の概念構築)】

佐々木 敏 (東京大学大学院医学系研究科予防疫学分野 教授)
14:10-14:30 【健康な食事研究会(中食の実態把握)】 坂田 隆 (石巻専修大学理工学部 教授)
惣菜や弁当、配食などの中食企業への調査を元にして、企業が「健康な」食事にとって重要だと考える栄養や食材、こ
うした商品の開発・訴求のしかた、官・学に対する要望を紹介する。

14:30-14:50 【健康な食事研究会(社会実装)】 桑田 有 (人間総合科学大学大学院 教授)
国民全体に健康な食事を普及していくための社会実装を目指した先行事例を調査研究し課題の抽出と解決策の糸口を探る。

14:50-15:00 休憩

◆座長: 阿部 文明

15:00-15:40 【東京大学 機能性食品ゲノミクスー寄付講座成果の総括】 阿部 啓子 (東京大学大学院 教授)
機能性食品の生体効果・効能をゲノミクス技術により解析し、健康長寿への貢献度を予測した。その成果(200報以上の
論文発表)の概要と食品による健康(恒常性・未病)維持ならびに発病遅延の機構の一端を食品・栄養の面から解明した。

15:40-16:20 【第9回ライフサイエンス・シンポジウムー総括 栄養科学と運動科学の融合】 宮地 元彦 (国立健康・栄養研 身体活動研究部 部長)
ILSI Japanは、食生活の改善とともに健康維持に欠かせない重要な要素の一つである「身体活動」についても着目し
「栄養と運動」をキーワードとした活動に取り組んできた。栄養科学と運動科学に関する新たな切り口を追求した
本シンポジウムでの発表と議論を総括し、超高齢化社会が直面する「健康寿命の延伸」問題を解決する糸口を探る。

16:30-17:10 総合討論

セッション2 講演者全員 及び モデレーター: 宮地 元彦 (国立健康・栄養研)

国内外の著名な先生方にご参集いただきます。

10 月 2 日(水)			
セッション 3： プレシジョンニュートリションで拓く健康の未来			
			◆座長： 安川 拓次
9:00-9:40	基調講演	宮田 裕章	(慶應大学医学部 医療政策・管理学教室 教授)
			◆座長： 阿部 圭一
9:40-10:20	【先端データサイエンス (AI と個別化医療)】		
		井元 清哉	(東京大学医科学研究所 教授)
10:20-11:00	【Personalizing Nutrition for Healthy Aging】		
		Dr. Jose Ordovas	(タフツ大 教授 アメリカ)
		Director Nutrition and Genomics, Professor Nutrition and Genetics , JM-USDA-HNRCA at Tufts University The current increase in life expectancy has added sick, rather than healthy years to our lives. In order to achieve both, longer and healthy lives, we need to predict an individual aging trajectory based on genomic, epigenomic and metabolomic information and to develop personalized dietary and behavioral recommendations that will facilitate successful aging.	
11:00-11:10	休憩		
			◆座長： 国澤 純
11:10-11:50	【Gut Microbiome and Nutrition】		
		Dr. Doris Vandeputte	(ルーベン大 ベルギー)
		Department of Microbiology and Immunology, KULeuven, Belgium We are only beginning to understand how microbes affect our daily lives, yet it is clear they affect our health in many ways. Here we will take a closer look at our gut microbes in health and disease, and discuss how we could use this knowledge to improve lives.	
11:50-12:30	【Sub-genomic variation in the gut microbiome associates with human metabolic health】		
		Dr. David Zeevi	(ロックフェラー大 教授 アメリカ)
		Structural variability in the genomes of microbes is widespread in the human microbiome. Variable genomic regions are associated with host disease risk factors. Examining genes in those regions exposes putative mechanisms of influence. I can also talk about personalized nutrition by prediction of glycemic responses.	
12:30-13:40	昼食		
			◆座長： 谷口 茂
13:40-14:20	【アミノ酸バイオマーカー】		
		木村 毅	(味の素㈱取締役 常務執行役員)
		非感染性疾患の早期発見とリスク評価のためのバイオマーカー：癌の早期発見および糖尿病、心筋梗塞および脳卒中の予測リスク評価のための血漿遊離アミノ酸プロファイルの使用について紹介する。	
14:20-15:00	【運動・身体活動と普及科学】		
		鎌田 真光	(東京大学大学院医学系研究科 助教)
		運動・身体活動は重要な生活習慣だが、人々の行動を変えるにはどのような対策が効果的だろうか？健康無関心層など、従来の知識提供型・教室型の健康づくりではカバー出来なかった層も射程に入れつつ、マーケティング等を活用した普及手法を紹介する。	
15:00-15:40	【時間生物学：生物時計と生体リズム】		
		山仲 勇二郎	(北海道大学大学院教育学研究院 准教授)
		生物時計はヒトの行動と生理機能に 24 時間のサーカディアンリズムを発振し、正常な生理機能の発現に重要な役割を担っている。本講演ではヒト生物時計の基本性質および生物時計の同調状態が心身の健康に与える影響について我々の研究成果を交えて紹介する。	
15:40-15:50	休憩		
15:50-17:20	パネルディスカッション		
セッション 3 講演者全員 及び モデレーター： 宮田 裕章 (慶應大学医学部 医療政策・管理学教室 教授)			
17:30-17:40	閉会の挨拶	安川 拓次 (ILSI Japan 理事長)	
		特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構 (ILSI JAPAN) 〒102-0083 東京都千代田区麹町 3-5-19 にしかわビル 5 階 webmaster@ilsijapan.org http://www.ilsijapan.org/	

第8回「栄養とエイジング」国際会議

“平均寿命と健康寿命が一致する社会の実現”

2019年10月1日(火) 2日(水)



「プレジジョン・ニュートリションが拓く、健康の未来」

国際会議の内容

第一部では、「栄養とエイジング」研究の30年を振り返るとともに、政府主導で進められている「健康日本21」の現状把握とその国際比較について考察します。

第二部では、ILSI Japanの取組みとして、機能性食品ゲノミクス（東大寄付講座）、健康な食事研究会、栄養科学と運動科学の融合に関するシンポジウムの成果を報告する予定です。

第三部では、「プレジジョン・ニュートリションが拓く健康の未来」をテーマに、個々人が健康に生きていく上で欠かせない食事・栄養・運動を対象とした、人工知能（AI）やビッグデータなどの新技術／データサイエンスを駆使した新たな研究および社会実装手法の状況とその可能性について議論します。

◇セッション1：オーバービュー

- ・長寿社会の課題と可能性
- ・日本の栄養政策の歴史
- ・健康日本21（第2次）の現状と課題
- ・International Research Developments Focus on Human Variation in Response to Food and Nutrients
- ・総合討論

◇セッション2：ILSI Japanの取り組み

- ・健康な食事研究会
- ・東京大学機能性食品ゲノミクス（寄付講座成果の総括）
- ・ライフサイエンスシンポジウム総括：運動科学と栄養科学の融合
- ・総合討論

◇セッション3：プレジジョンで拓く健康の未来

- ・特別講演
- ・最先端データサイエンス（AIと個別化栄養）
- ・Personalizing Nutrition for Healthy Aging
- ・Gut Microbiome and Nutrition
- ・Sub-genomic variation in the gut microbiome associates with human metabolic health
- ・アミノ酸バイオマーカー
- ・運動・身体活動と普及科学
- ・時間生物学：生物時計と生体リズム
- ・パネルディスカッション

組織委員会

委員長：	宮澤 陽夫	ILSI Japan 会長 東北大学 未来科学技術共同研究センター(NICHe) 教授
委員：	安川 拓次	ILSI Japan 理事長 花王株式会社エグゼクティブ・フェロー
	木村 毅	味の素株式会社 取締役 常務執行役員
	桑田 有	人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 教授
	坂田 隆	石巻専修大学 理工学部 教授
	谷口 茂	株式会社明治 執行役員 研究本部 研究戦略統括部長
	阿部 圭一	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事
	阿部 文明	森永乳業株式会社 執行役員 研究本部 素材応用研究所 所長
	岩元 睦夫	公益社団法人 日本フードスペシャリスト協会 会長
	清水 誠	東京農業大学 応用生物科学部 栄養科学科 教授
	辻村 英雄	サントリー食品インターナショナル株式会社 取締役副社長
	戸上 貴司	ILSI Japan CHP(健康推進協力センター) シニアアドバイザー
	中江 大	東京農業大学 応用生物科学部 食品安全健康学科 教授
	松山 旭	キッコーマン株式会社 取締役常務執行役員 研究開発本部長
	守田 稔	森永製菓株式会社 健康科学研究センター長
	山田 雄司	山崎製パン株式会社 執行役員 中央研究所 所長

(敬称略、順不同)

用語 日本語、英語（同時通訳付）

* 詳細なプログラムや参加登録手続きについては
2019年3月頃、ILSI Japanホームページに掲載する予定
ですので、そちらをご覧ください
(<http://www.ilsijapan.org/>)

国際会議のねらい

International Life Sciences Institute, ILSIは、1978年にアメリカで設立された非営利の団体です。ILSI JapanはILSIの日本支部として1981年に設立され、その10周年記念として、1991年に第1回「栄養とエイジング」国際会議を開催し、以降4年に一度、同国際会議を開催して参りました。

今回の第8回会議は、2012年の厚生労働省「健康日本21（第2次）」の中で掲げられた「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」Sustainable Development Goals (SDGs) に鑑み、世界に先駆けて超高齢社会を迎えている日本が、アジア全体を見据え、栄養とエイジングの分野で「健康寿命の延伸」実現の方向性を示し、世界に貢献することを目指し企画しています。

国際会議のねらい

International Life Sciences Institute, ILSI は、1978 年にアメリカで設立された非営利の団体です。科学的な視点で、健康・栄養・安全性・環境に関わる問題の解決および正しい理解を目指すとともに、今後発生する恐れのある問題を事前に予測して対応していくなど、活発な活動を行っています。

ILSI Japan は ILSI の日本支部として 1981 年に設立され、その 10 周年記念として、1991 年に第 1 回「栄養とエイジング」国際会議を開催し、以降 4 年に一度、同国際会議を開催して参りました。

本国際会議は、人類がこれまで経験したことがない超長寿社会における新たな栄養、健康のサイエンスをテーマに、国内外の研究者による先端の科学・技術に関する講演、研究発表・討論を実施し、その内容はブローディングスとして出版され、高い評価を得て参りました。

今回の第 8 回会議は、2012 年の厚生労働省「健康日本21(第2次)」の中で掲げられた「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」Sustainable Development Goals(SDGs)に鑑み、世界に先駆けて超高齢社会を迎えている日本が、アジア全体を見据え、栄養とエイジングの分野で「健康寿命の延伸」実現の方向性を示し、世界に貢献することを目指し企画しております。

国際会議の内容

具体的な内容として、第一部では、「栄養とエイジング」研究の 30 年を振り返るとともに、政府主導で進められている「健康日本 21」の現状把握とその国際比較について考察します。第二部では、ILSI Japan の取組みとして、機能性食品ゲノミクス(東大寄付講座)、健康な食事研究会、栄養科学と運動科学の融合に関するシンポジウムの成果を報告する予定です。第三部では、「プレジジョン・ニュートリションが拓く健康の未来」をテーマに、人が健康に生きていく上で欠かせない食事・栄養・運動を対象とした、人工知能(AI)やビッグデータなどの新技術／データサイエンスを駆使した新たな研究および社会実装手法の状況とその可能性について議論します。本国際会議の内容は国際的に広く理解を得るため、英文雑誌への投稿を予定しています。

ILSI Japan
第 8 回「栄養とエイジング」国際会議

“平均寿命と健康寿命が一致する社会の実現”

組織委員会

- 委員長: 宮澤 陽夫 ILSI Japan 会長 東北大学 未来科学技術共同研究センター(NICHE) 教授
- 委 員: 安川 拓次 ILSI Japan 理事長、花王株式会社エグゼクティブ・フェロー
- 木村 毅 味の素株式会社 取締役 常務執行役員
- 桑田 有 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 教授
- 坂田 隆 石巻専修大学 理工学部 教授
- 谷口 茂 株式会社明治 執行役員 研究本部 研究戦略統括部長
- 阿部 圭一 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事
- 阿部 文明 森永乳業株式会社 執行役員 研究本部 素材応用研究所 所長
- 岩元 睦夫 公益社団法人 日本フードスペシャリスト協会会長
- 清水 誠 東京農業大学 応用生物科学部 栄養科学科 教授
- 辻村 英雄 サントリー食品インターナショナル株式会社 取締役副社長
- 戸上 貴司 ILSI Japan CHP(健康推進協力センター)シニアアドバイザー
- 中江 大 東京農業大学 応用生物科学部 食品安全健康学 科 教授
- 松山 旭 キッコーマン株式会社 取締役常務執行役員 研究開発本部長
- 守田 稔 森永製菓株式会社 健康科学研究センター長
- 山田 雄司 山崎製パン株式会社 執行役員 中央研究所 所長
- (敬称略、順不同)
- 実行委員: ILSI Japan 栄養研究部会、ILSI Japan 事務局

本会議の翌年、2020 年には、人々の健康の基盤となる栄養分野の取り組みを促進するために「栄養サミット」が東京オリンピック・パラリンピックとともに開催されます。また、国際保健機関(WHO)は、Global Monitoring Frame on NCDs(the Political Declaration on Non communicable Diseases)として、①肥満と糖尿病の増加阻止、②塩分摂取量を 30%減少、③高血圧の 25%の減少、という 3 つの世界共通目標を 2025 年までに達成することを掲げています。このような大きな政策的な動きの中で、本会議を通して ILSI Japan としての取り組みを社会に提言していくことは非常に重要であり、また、それに相応しい充実した内容にする所存です。

本国際会議は、国内外から先端のエキスパートを講師として招聘することに加え、より活発な議論をいただくために、食品、医薬品および関連企業の経営者と研究開発担当者、臨床医、栄養士、健康・栄養およびエイジングに関わる国立・公立および民間研究機関の研究者、国および地方自治体の健康・栄養政策担当者のご参加を予定しています。

日本で開催されるこの国際会議には国内外の学界、産業界および政府機関の方々からも大きな期待が寄せられています。多数の皆様のご参加を得てこの会議がその目的を十分に果たし、益々進行する高齢社会に貢献する科学の発展に寄与し、産業界の進むべき方向を示すことに繋がることを期待しております。

第8回栄養とエイジング国際会議では、プログラムの項にあるように3つのセッションを設けています

プログラム

メインテーマ:

“平均寿命と健康寿命が一致する社会の実現”

セッション1: オーバービュー

- ① 栄養とエイジング
- ② 健康日本 21 の現状(第 2 次)
- ③ 国際比較
- ④ 総合討論

セッション2: ILSI Japan 活動報告

- ① 機能性食品ゲノミクス(東大寄付講座)
- ② 健康な食事研究会
- ③ 運動科学と栄養科学の融合
- ④ 総合討論

セッション3: プレジジョンで拓く健康の未来

- ① 基調講演: 最先端データサイエンス
- ② 健康と栄養
- ③ 運動と身体休息
- ④ 睡眠・時間栄養・メンタルヘルス
- ⑤ 腸内細菌・エイジングブレイン
- ⑥ パネルディスカッション

用語 日本語、英語(同時通訳付)

参加登録費概要(事前登録は 2019 年 7 月 31 日まで)

会 員 : 25,000円(事前登録 20,000円)
非 会 員 : 30,000円(事前登録 25,000円)
学 生 : 7,000円

* 詳細なプログラムや参加登録手続きについては2019年3月頃 ILSI Japan ホームページに掲載する予定ですので、そちらをご覧ください(<http://www.ilsijapan.org/>)。

1st Announcement

ILSI Japan
The 8th International Conference
on Nutrition and Aging

ILSI Japan

第8回「栄養とエイジング」国際会議

“平均寿命と健康寿命が一致する社会の実現”

開 催 日
2019年10月1日(火) 2日(水)

開 催 場 所
東京大学 弥生講堂 一条ホール

主 催
特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構
(ILSI Japan)



特定非営利活動法人
国際生命科学研究機構
〒102-0083
東京都千代田区麹町 3-5-19
にしかわビル 5 階
webmaster@ilsijapan.org
<http://www.ilsijapan.org/>